



発行所
長崎教区仏教婦人会連盟
諫早市新道町50-3
TEL 0957@3011

発行日
2023 (令和5) 年12月12日
第45号
印刷所
第一印刷株式会社

「世界仏教婦人会大会に参加して」

仏教婦人会連盟
副委員長
酒井 静香

去る5月11日〜12日に「第17回世界仏教婦人会大会」が京都の地で開催され、長崎教区より60名の会員の皆様と参加いたしました。

この大会に先立って、本願寺では「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」が開催されており私達も11日の法要に参拝することができました。広い御影堂の廊下までいっぱいの方々が、その中で一糸乱れず進行、ジーンと心に体に染み渡る経の中で、脈々と受けつがれてきた800年の重さとお念仏の力を信じてつながる力を感しました。

その後、世界大会の会場となる京都国際会館に移動し、ウェルカム行事として「グローバル・交流会」が開催されました。

全国より約2000名、ハワイ、カナダ、南米、北米よつになり交流会が始まり、プレゼント交換をし、にぎや



合 掌

を受け継ぎ、信じて、子や孫そして地域の人々にその輪を広げようと活躍されている様子が力強く発表される姿、声に感じられ自分の姿を考える時間となりました。私にとつてお念仏の力を感し考える大会でした。

皆様お世話になりました。ありがとうございました。

次の大会は、4年後の2027年9月11日〜12日、ハワイのホノルルにて開催される予定です。外国で暮らしている日系2世・3世の方々の体験発表で、は、両親よりしつかりお念仏たら良いですね！



「世界仏教婦人会大会に

ご縁をいただいて」

五島組元海寺坊寺

七里倫子



第17回世界仏教婦人会大会

にご縁を頂く事ができました。

「ご縁を慶び、お念仏とともに
カナダ・南米から同じ仏教
婦人会のメンバーが集われま
したこと、とても有難く尊い
ご縁に恵まれたこと嬉しく思
います。
世界大会前には、ご本山で
行われた慶讃法要へ参詣させ
て頂きました。ご本山へ初め
て参詣された方は、「立派なお
寺で感動します」と言われ、
境内では小学校の先生をされ
ていたご門徒と教え子との50
年ぶりの嬉しい再会もありま
した。その後、世界大会の行
われる京都国際会館へ出発。
到着したとたんウエルカムイ
ベントとして用意してくだ
さったワークショップに「私
は KENZOBOS ば見てくつけ
らしい一日を過ごさせて頂い
ているなあと感謝の2日間で
ございまして。この大会を成
功させるに当たり、総連盟の
方々、沢山のスタッフの方々
にお力を頂いた事と存じます。
尊いご縁に感謝しつつ、元海
だーという感想に笑い合い、
「えー私、日本語と五島弁しか
喋れん」と言いつつ海外の
開教区の方と、しっかりグレ
ゼント交換をし、なぜか手を

握りあつてお話をされてい
て、どこが人見知りなん？と
つっこみたくなったり、五島
が朝ドラ「まいあがれ」のロ
ケ地になったこともあり会話
がはずんだり、日本のおどり
(春駒)、ハワイのフラダンス、
アラジルのサンバなど歌や踊
りで盛り上がり、ホテル
までのバス中は「楽しかつ
た。また来たかね〜まだ、
1日目よ」と楽しい一日を
過ごさせていただきました。

世界大会2日では、シン
ガソングライターのちひろ
さんが九条武子様の御心を歌
にされ素敵なお歌と歌詞に感
動をし、森田眞円先生の講演
をお聴聞させて頂きながら同
じ浄土真宗の門徒さんが海外
にも日本にも沢山いるんだと
喜ぶ姿を見た時、心から素晴
らしい一日を過ごさせて頂い
ているなあと感謝の2日間で
ございまして。この大会を成
功させるに当たり、総連盟の
方々、沢山のスタッフの方々
にお力を頂いた事と存じます。
尊いご縁に感謝しつつ、元海
だーという感想に笑い合い、
「えー私、日本語と五島弁しか
喋れん」と言いつつ海外の
開教区の方と、しっかりグレ
ゼント交換をし、なぜか手を
いただきました。

ご 法 話

大阪教区覆並組法栄寺前住職
小林 顕英 師
 <二〇二三(令和五)年度>
 長崎教区仏教婦人会大会(総会)実践運動研修会 ご講師



が思いをわかつてくれる人がいない。別の表現では、居場所がない。一人ぼっちである。ということでは、私の「つらさ」「悲しさ」「苦しさ」を先に見抜き、知り抜いてくださった阿弥陀さまが、先に「南無阿弥陀仏」と、声の佛・言葉の如来となつて用いてくださっているのです。

闇は、門構えの中に音という字を書きますが、音・声の届いていない状態と私は読ませてもらって、大勢の人の中にありながら、私の存在にすら気づいてもらえない。我が思いをわかつてくれない人がいない。孤独よりも、孤独の方がつらい。と聞かせてもらったことがありますが。

私は無人島に一人で居ると。という孤独は、全く想像がつかないのですが、我が思いをわかつてくださった阿弥陀さまが、先に到り届いてくださり、「すでに一人ぼっちではない。阿弥陀と一緒に居る」と私を喚び続けてくださっていたのです。

もう随分前のことですが、広島県竹原市のお寺で、このように書かれた色紙を見せていただいたことがあります。浄土真宗のみ教えが、見事に凝縮して表現されており、初めて出遇った時は、言い知れぬ感動を覚え、法話の中でも度々引用させていただいています。

常に居ますを佛という
 此処に居ますを佛という
 共に居ますを佛という
 この佛を南無阿弥陀佛という
 このいわれを聞いて敬ぶを信心
 という
 称えて喜ぶを念佛という
 岩本 月洲 師

も私と一緒にいたしますのが、「南無

『仏説無量寿経』(注釈版7頁)に、「不請の友となる」と示されています。衆生が請願しなくとも、衆生のために大いなる慈しみをもつてその親友となる人。と脚注に説明があります。

私にとつて「なにが一番つらいのか」と考えてみますと、我

す。

一人ぼっちである。ということでは、私の「つらさ」「悲しさ」「苦しさ」を先に見抜き、知り抜いてくださった阿弥陀さまが、先に「南無阿弥陀仏」と、声の佛・言葉の如来となつて用いてくださっているのです。

闇は、門構えの中に音という字を書きますが、音・声の届いていない状態と私は読ませてもらって、大勢の人の中にありながら、私の存在にすら気づいてもらえない。我が思いをわかつてくれない人がいない。孤独よりも、孤独の方がつらい。と聞かせてもらったことがありますが。

私は無人島に一人で居ると。という孤独は、全く想像がつかないのですが、我が思いをわかつてくださった阿弥陀さまが、先に到り届いてくださり、「すでに一人ぼっちではない。阿弥陀と一緒に居る」と私を喚び続けてくださっていたのです。

「決して見捨てることはない。一人ぼっちにはしない」と用いてくださる阿弥陀さまと共に、思うようにはならない日々であっても、力一杯・精一杯、「生まれさせていだだけてよかつた・遇えてよかつた」と生き抜かせていただきたいものです。

仙教婦人会連盟行事予定

<二〇二三(令和五)年度>
 ・ 寺族婦人・代表者研修会
 期 日：二〇二四(令和五)年 二月十三日(火)・十四日(水)
 ご講師：野村 康治 先生
 (本願寺派布教使)
 会場：本願寺長崎教堂 本堂
 担当組：十三日(火) 長崎西組
 十四日(水) 島原南組
 参加組：十三日(火) 長崎組、長崎西組、諫早組、平戸組、五島組
 十四日(水) 佐世保組、諫東組、島原西組、島原南組、島原北組

<二〇二四(令和六)年度>
 ・ 長崎教区仏教婦人会大会(総会)
 期 日：二〇二四(令和五)年 六月十八日(火)・十九日(水)
 会場：ホテル南風楼
 講師：三宮 享信 先生
 (本願寺派布教使)
 滋賀教区滋賀組正源寺住職
 担当組：五島組
 教区仏教婦人入門講座(全三回)
 (例年七・九・十一月)
 期 日：未定
 会場：本願寺長崎教堂 本堂
 研修形態：ハイブリッド
 講師：塚本 一真 先生
 (本願寺派総合研究所研究員)
 佐賀教区三根組徳常寺)

・ 浄土真宗本願寺派九州地区門信徒の集い
 「第三十五回 仏教婦人大会」
 期 日：二〇二四(令和六)年 十月二十二日(水)
 担当教区：大分教区
 会場：別府国際コンベンションセンター
 (Bicop Plaza)

・ 九州行事

山門に入る 佐世保組 正法寺編

「鵜渡越よいどこ登ってござれ 九十九島はひと眺め」

先人の方が汗をふきふき長い登山道路を登り、親鸞聖人の銅像前より眼前に広がる九十九島を眺めながら詠まれた歌の一つです。

コロナ禍で三年ぶりとなりまし

た広報部の取材は、この度、十月後半、澄み渡った秋空の下、佐世保市にあります正法寺様にご縁色の良い鵜渡越に、熊本のお念仏を大事にされて通称「念仏軍曹」

を頂きました。正法寺様は、佐世保市の繁華街のすぐそばにあり、生活と地域に密接した町のお寺さんというのが印象的でした。本堂の中は木造で静かで厳かな雰囲気の中、坊守さんより温かいお茶とが建立されました。宗派の異なる

として、佐世保市琴平青年団が中心になって、鵜渡越に聖人の尊像が建立されました。宗派の異なるが建立されました。宗派の異なる

は、銅像前の広場に大きな鐘樓があったり、つじがきれいに咲いていたり、茶店があったり、春は花見、夏は夏祭り、賑わい、広場の中央の土俵で相撲をとったり、かけっこをしたりととても賑やかだったようです。



正法寺保管の初代親鸞像とご住職さま

人も有るため、なかなか容易には掛らなかつたそうですが、様々な協力を得て尊像建設に至ったそうです。

この鵜渡越の親鸞聖人の銅像は台座六メートル、大きさ五メートル全長十一メートルの堂々たる銅像でした。当時の銅像周辺の様子

は、銅像前の広場に大きな鐘樓があったり、つじがきれいに咲いていたり、茶店があったり、春は花見、夏は夏祭り、賑わい、広場の中央の土俵で相撲をとったり、かけっこをしたりととても賑やかだったようです。



正法寺さま



本堂にて記念撮影

しかし、親鸞聖人の銅像は昭和



佐世保市
正法寺
鵜渡越親鸞像



ご住職さまの丁寧なご説明に皆真剣！

鸞聖人の銅像の頭部を保管してある場所に案内していただきました。本堂そばの階段を下りていき、ひんやりとした空気の部屋には、当時の親鸞聖人の頭部の銅像が安置してありました。ご住職の肩ほど大きさに広報部一同とても驚きました。親鸞聖人の表情はとてもお優しく、微笑んでいるようにもみられる目じりや口元。おでこの出の運命に遇います。ところが、供出の時に親鸞聖人の頭部がゴロんと転がり、供出をまぬがれたそうです。その頭部を建造に携わった方々から、その表情を合

わさずにはいられていません。さて、それからは正法寺のご住職と一緒に鵜渡越にある親鸞聖人の銅像へ車で行き、途中で、無事に到着しました。歩いて広場を通り抜ける、小高い丘の上には、親鸞聖人が私たちに「ようこそ」と言わんばかりに待っていてくださいました。想像以上の大きさとなんともいえない親鸞聖人の優しい

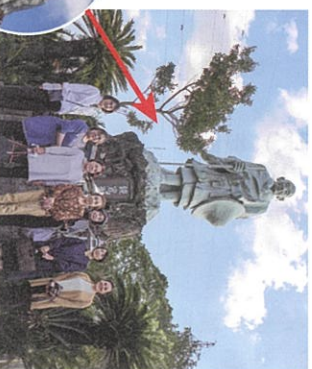
大変にぎわったそうです。「あれから四十年以上の月日が流れ、今は年に一度十月に野外法座が催され、ご門徒様と共に念仏のようごびをいただいております」と平成十四年当時の記事から、大切に喜ばれていた思いが伝わってきました。



空からの鵜渡越公園

表情に一同自然と手が合い、「なまんだぶつ なまんだぶつ」鵜渡越の親鸞聖人は九十九島を眺めながら雨の日も風の日も暑い日も寒い日も私たちを見守ってくださっているのだなと思いました。今回のご縁を通して先人の私たちの想いを汲みながら次世代に伝えていくことの大切さを知ることが出来ました。今後とも長崎教区の皆様、そして御同朋・御同行の皆様と共に連携を広報部としての活動を深めていきたいと思います。

（文）島原南組徳法寺安原院 真矢子



鵜渡越 親鸞聖人像

後方に発見！
親鸞聖人のおひざ元で合掌姿の弁丹



取材後記

今回の取材にあたりまして、険しい山道にも関わらず、正法寺のご住職さまの先導と教務所の永井先生のすばらしい運転で広報部一同鵜渡越の親鸞聖人像にお参りさせていただきましたことが出来ました。